

「青春一回帰」

40回卒「母校愛のリレー」

県陵40学年代表
高40回 青木 安幸



私たち「縣陵40」は「母校愛のリレー」を、桜吹雪舞い散る4月21日(土)、母校松本県ヶ丘高等学校大体育館において開催しました。

本年度は、テーマを『縣陵四重奏(カルテット)』(昭和最後の卒業生から平成最後の君たちへ)としました。「四重奏」には40回卒の「40」の意味合いと、4つの彩りを持つ講演を行い在校生に送るメッセージを奏でたいという思いを、サブテーマには、昭和最後の年に卒業し、平成の時代を支えてきた私たちから、平成の次の時代を担う県陵生へメッセージを贈りたい、という想いを込めました。



プレゼンを行った4人。左から山内、西村、道正、豊原

本年度は、テーマを『縣陵四重奏(カルテット)』(昭和最後の卒業生から平成最後の君たちへ)としました。「四重奏」には40回卒の「40」の意味合いと、4つの彩りを持つ講演を行い在校生に送るメッセージを奏でたいという思いを、サブテーマには、昭和最後の年に卒業し、平成の時代を支えてきた私たちから、平成の次の時代を担う県陵生へメッセージを贈りたい、という想いを込めました。

は、大学教授、経済系出版社社員、看護師、地方公務員と、卒業してから歩んだ道はそれぞれで、母校県陵に対する思いと、在校生に贈るメッセージを熱く語ってくれました。平成という大きく動いてきた時代を生きてきた仲間の話は、これからの時代を担う県陵生にとって、将来を考える有意義な時間になったと思います。



官足法(足もみ療法)実演



覇権の剣 斉唱

この母校愛のリレーの準備を始めてからは、1年半は、県陵生の団結力と連帯感の素晴らしさを実感できた貴重な時間でした。

実行委員のメンバーは半分以上が在校当時は面識がなく、最初は「誰だっけ?」という感じでしたが、青春時代の3年間を県陵で過ごしたというだけで、和気あいあいと笑いの絶えない時間を共有することができました。

この記念事業の実施にあたり、様々なご指導・ご協力をいただきました同窓会の皆様、学校の皆様、諸先輩方には心より感謝を申し上げます。

最後に、当日駆けつけてくれた仲間たち、運営に参加はできなかったけれど、寄附という形で協力してくれた仲間たち、仕事や家庭に忙しい中、時間を割いて実行委員会に参加してくれたみんな、本当にありがとうございます。

県陵一九会あれこれ

高19回 遠藤 久芳



昭和42年、母校県陵を卒業した。第一次ベビーブーム、団塊の世代、10クラス406名が夢と希望に燃え、青春の一時を県陵で過ごした。

勉強はさておき、よき友との出合いや語らい、部活動、県陵祭、強歩や応援練習、他校への祭りの参加など苦しかった事、楽しかった事、県陵での遠い日の出来事が懐かしく甦る。

卒業以来毎年我々の一九会を開催して来た。2月10日(建国記念日の前夜)午後6時半、会場は賑々として来たが、今は深志神社梅風園である。日時、場所を決めてあるので、行き合う同期生に出席を促す事が出来る。地域ごと、女性軍、県外と10ブロックに分け、連絡員を置き出欠を取る。



平成30.2.10 一九会

今年の一九会は、38名の参加であった。同期と言うだけで懐かしく、話しが弾み結構楽しく飲める。

19回参加すると表彰状を贈る。特殊紙(シルバーマタリック)の立派な表彰と額である。今年の主題は、来る9月18日(火)午後6時於和泉荘で開催の「卒業50周年古稀を祝う会」への参加呼びかけ、「県陵100周年」に向けての寄付金、同窓会費納入の依頼である。アンケートでは、皆快く応じて戴けそうで、心強く嬉しい事である。更に同窓会への理解を深めて行きたい。

ゴルフは、平成20年、一九会「還暦祝賀会」を記念して発足し、10年になる。壺鳩会(いちきゅうかい)と命名、一番最高の集り、19番目ホール、19回卒業生と整合し、なかなか意味が深い名である。県陵同窓会コンペの参加を含め年に3回は実施している。第3回コンペでは、前田紳一君がホールインワンを達成、祝賀会は大いに盛り上がった。古稀ともなると、既に同期生34名(同窓会調べ)が他界している。第一線を退いた今、自分自身の身体に留意しながら、同窓会を含め大いに楽しんで暮らして行きたいものである。